

# 委託事業実施内容報告書

## 平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日系人等を活用した日本語教室の設置運営】

受託団体名 豊進鉄筋株式会社

#### 1 事業の趣旨・目的

第1回日本語教室では、参加を希望する企業の中国人研修生を対象に、国家資格である玉掛けクレーンの運転資格を取得するを目標にする。研修生が玉掛け試験に合格することにより、資格手当を支給されて今より高賃金を得る事ができ、携われる仕事の幅が広がる。

第2回日本語教室では、中国人を雇っている近隣の企業の来日1年未満の研修生に、仕事や日常生活に必要な日本語を学んでもらい、意思の疎通が図れないためにおこる摩擦を防ぎ、良好な人間関係を保てるようにする。

#### 2 運営委員会の開催について (運営・企画会議の議事録添付)

開催日時	出席者	議題	会議の概要
2008年 7月9日	大谷勲・表昌市 稲葉一郎・長屋正幸 銭 萃芬・小島和子 石原誉慎・青山勇 長谷川斎・中島 章博 長屋 寿恵	1 運営委員、教授者の顔 合わせ 2 第1回日本語教室運営 方法の最終確認 3 教授者スケジュール調整	第1回教室は 玉掛け 資格を取ることを目標に する。教科書が専門用 語が多く難しいので、銭 萃芬さん以外の教授者 の時は通訳が必要。
2008年 8月30日	大谷勲・表昌市 稲葉一郎・長屋正幸 長屋 寿恵	1 スタートした日本語教室 の現状説明(合格見通し) 2 第2回日本語教室の運 営方法	受講生たちが真剣に勉 強していて見通しは明る い。試験会場に通訳が 同席できるよう日本ク レーン協会に交渉中
2008年 11月15日	大谷勲・表昌市 稲葉一郎・長屋正幸 銭 萃芬・青山 勇 長谷川斎・長屋 寿恵	1 11月11, 12日の玉掛け 学科試験の報告 2 第2回日本語教室視察	17日の実技試験の前日 に実技練習をする。 第2回教室を視察し、教 科書が適切かチェックす る。

2009年 1月20日	大谷勲・表昌市 稲葉一郎・長屋正幸 長屋 寿恵	1 第2回日本語教室の現状報告 2 モチベーションを維持させる方法。	来日1年未満の中国人対象で、日本語理解力が低く、講義内容を再検討する必要あり。 標準語と方言のすり合わせが難しい。
2009年 3月21日	大谷勲・表昌市 稲葉一郎・長屋正幸 錢 萃芬・石原誉慎 中島章博・長屋 寿恵	1 今年度の日本語教室の総括 2 来年度の実施計画	金銭や資格など何か目標がないと受講者のモチベーションを保つのが難しい。

2009年3月21日 アイランドカフェにて  
第5回運営会議



### 3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 第1回 日本語教室 ・第2回日本語教室
- ② 開催場所 長良川スポーツプラザ・県民ふれあい会館・岐阜県水産会館  
大創産業(有) 工場 岐阜中部建設業協同組合 会議室
- ③ 学習目標 玉掛け等の 国家資格を取得する。  
仕事や日常生活がスムーズにできるようコミュニケーション能力を養う  
日本語能力試験3級に合格する。
- ④ 使用した教材・リソース 日本語 100 時間・みんなの日本語・玉掛け教科書とそれぞれの  
問題集
- ⑤ 受講者の募集方法 中国人研修生を採用している取引先の企業に電話で呼び掛けた
- ⑥ 受講者の総数 21人 (延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)
- ⑦ 開催時間数(回数) 76 時間 (全 35 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	時間数	参加人数	国籍・母語	教授者 補助者	内容
1～18	36時間 3日	13	中国・中国語	教授者 4人 補助者 2人	玉掛けクレーンの資格取得 玉掛け技能講習(日本語・中国語)
1～20	40時間	8	中国・中国語	教授者 2人 補助者 2人	日常会話の向上 にほんご100時間 と 問題集 教授者が作った宿題用の問題

※ 詳細は第1回日本語教室・第2回日本語教室のスケジュール表を参照

⑨ 特徴的な授業風景(2～3回分)



上 第1回日本語教室 講義と実技講習

下 第2回日本語教室 会話ができるよう コ の字に机の配置を変えてみる。  
宿題の採点を当番企業がして、点数表に記入する。



⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
銭 萃芬	中国語	13年	23回	教授者, 通訳
林 清	中国語	9年	6回	通訳
張 雪	中国語	3年	7回	通訳

⑪ 支援者の名簿(⑦以外)

日本語教室開催日に当番の担当企業が会場設営、受付、最後の片付け、宿題の採点などを行った。岐阜中部建設業協同組合の会議室を借りられるまでは、各企業が受講者の送迎を毎回した。

#### 4 事業に対する評価について

##### ① 当初の学習目標の達成状況

第1回日本語教室では当初の目標通り、受験者12人全員が(受講者13人のうち1人が家庭の事情で中国に帰国中だった) 国家資格の玉掛け免許を取得する事ができた。

第2回日本語教室では、仕事での会話はあまり不便ではなくなってきた。

##### ② 学習者の習得状況

第2回教室の受講者に限って言えば、食品や日用品などの生活必需品の買い物はこなせるが、パソコンなどの非日常品の買物や、銀行、病院へは通訳がいないと行けない。

##### ③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

玉掛け免許を取得したことによって、今まで外国人という理由だけで、一部の大手ゼネコンの現場には入れなかった社員が現場での仕事に従事できるようになった。

日本語が仕事での以前より理解できるため、仕事の上達も早く、間違いが少なくなった。

##### ④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

受講者の住居がばらばらであり、なおかつ講義内容が絞られていたため、なかなか地域住民との連携は取りにくかった。

##### ⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

###### a. 現状

仕事が終わると、どうしても中国人だけで集まり、教室で日本語を習っても仕事以外に話す機会があまりない。

教科書の標準語と方言のすり合わせが難しい。

###### b 今後の課題

日本語を聞き取る能力はかなりあるので、日本人従業員に、中国人と積極的に話すよう指導する。役場と相談しながら、イベントを開催したり、参加させたりして地域住民と交流できる機会を設ける。

###### c 今後の活動予定, 展望

中国人を雇っている各企業だけでなく、住居に近い役場などに相談して受講者を募る。

通訳なしで、買物・銀行・病院に行けるよう日常会話を学ぶ。